

平成30年度 第4回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月21日（月） 19時～20時30分
と ころ	府中市立栗生小学校
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	学校運営協議会委員12名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長

《教育》

- ・ 栗生小の学校運営協議会は、ちょうど4年前にスタート。3年目の昨年度、子どもが変わったと感じた。子どもが落ち着いて話を聞いている。自転車競技の大会で3位に。備後国府まつりのパレードで優勝。CSを始めてよかった。まだ課題はたくさんあるが、なんとかできてきている。始めるときに、本気を出すと言った。大人が本気を出せば子どもも本気になる。
- ・ CSになり、年数が経つにつれて、子どもたちが挨拶出来るようになり、地域を頼りにしてくれ、子どもが大人たちの仲間に入り、一緒に行事ができるようになった。
- ・ 先生の荷を地域が引き受けることで、先生が本来の取り組むべきところに力を注げ、子どもにあたることができる。
- ・ 子どもたちに栗生の伝統行事を将来話せるように教えている。虫送りで子どもたちにも叩かせるということで、怪我をしたら誰が責任をとるのかという話にもなったが、子どもたちに教えていかないと将来はない。
- ・ CSは、子どもの輝けるチャンスを増やしていけるということ。大人が子どもたちに期待をすると、子どもたちがそれに応えようと練習も本番もがんばる。子どもの本気を見て、大人が感動するという好循環。
- ・ PTA役員をしないといけないからではなく、PTA役員をしたくてしているということを広げたい。参加が難しい保護者にも、楽しくやっているのを見せたい。
- ・ 地域をよく知っている先生がいるとコミュニケーションがうまくいく。地域を知る先生の存在は大きい。
- ・ 今日のことを土台に地域の人を巻き込むアウトソーシングをしっかりとしたい。できるだけ先生に早く帰ってもらう努力をする。
- ・ 子どもの科学作品や図書の調べ学習は素晴らしいので、蓄積して残していくことができないうか。写真などでも良いので。

広報ふちゅうにも掲載している子どもの作品の「腹の底から笑いあった家族エピソード」や「少しのがまん川柳」を冊子にする動きがある。

市

《子育て》

- ・ 統計的にDVやネグレクトなどは増えている現状。地域で相談する人がいれば違ってくる。相談できる体制が必要。
- ・ 民生委員は、赤ちゃんとつながっていない。赤ちゃんが生まれたときに、訪ねて行って関係をつくりたいが、そういった情報の開示はできないか。DVなどの相談を何回か受けたが、入れない、踏み込めない。

市にDVやネグレクトの相談窓口はあるが、現実には相談が必要な人が来られていないと感じる。

新年度から、ネウボラを始め、出産から高齢者まで相談ができるようにしている。チームとして、民生委員さんも入れて連携をとるということをしたこともある。4か月健診、10か月健診のときに一緒に民生委員も行くというやり方などができないか。

市

ネウボラの拠点を府中地区に1つ、上下地区に1つ作る。ワンストップサービスは平成31年度中に作る。行きやすいショッピングセンターや集会所などに拠点を置くということで準備を進めている。

連携が出来るのであれば、地域の窓口から女性こども課へなど、直接または間接的に相談しやすい仕組みを作りたい。情報がつながって守る・保存する取り組み。

部長

《防災》

- ・ 昨年、3回防災教育をした。気象や地質など、授業とからみがあるため、授業に入れることも必要。釜石で防災教育をしている99.8%が助かったのを聞くと、防災教育が大事なのではと感じる。
- ・ 小さいときから防災について勉強するのが大事。地域の高齢者にも認識して危機感をもってほしい。繰り返しの勉強が大事。危険地帯の認識も必要。
- ・ 今年度は防災を取り入れた授業を行った。地域の人に言われて学校が動いた。お互い言ってもらえれば動く。組織として同じ方向を見て取り組んでいきたい。
- ・ 防災教育では、各学年それぞれマップ作りなどの学習、6年生は一中から理科の先生から地震のしくみなどを学んだ。午後からは全体で命について考える授業。救急法、防災士の話、引渡し訓練。その後、7月豪雨で実際に勉強していたことが起きた。

防災教育はいい取り組みなので、ぜひ参考にしたい。

昨年7月の豪雨災害時、府中市では1,000人が避難。全体の2.5%にあたる。NHKのアンケートによると、避難しようと思った動機の1番は気象の変化、次に近所の声掛け。孫に言われると避難せざるを得ない。避難時には公民館の協力をいただいた感謝している。

市

《その他》

- ・ 庁舎内のトイレは改修されたが、体育館のトイレは和式のまま。
- ・ 府中市に子どもを産める病院がない。また、小児科も夜間は福山市か尾道市まで行かなければならない。

全国的に医師のなり手不足。大学に何度も行っているがなかなか難しい。府中市で開院したら補助金がある。いろんなところに掛け合っている。

市

《最後に》

活発な意見を出していただき、感謝。この地域のCSは市内でもすすんでいると感じる。地域と行政と連携していきましょう。

市